

11. その他中心市街地の活性化のために必要な事項

[1] 基本計画に掲げる事業等の推進上の留意事項

個別事業等に関連した実践的・試行的な活動の内容・結果等

(1) にぎわいの創出に関連した活動

① 道路空間の有効活用社会実験(国土交通省)

平成16年10月、12月に玉宮通りで、国土交通省の支援による道路空間活用(オープンカフェ等)の社会実験を行ったが、歩行者通行量は平常時より50%程度増加した。

また、来街者に対するアンケート調査では、“オープンカフェ”は45.4%、“フリーマーケット”は36.3%、“ワゴンセール”は29.1%の人が良かったと評価し、こうした取組みによる道路空間の活用をもっと広げるほうが良いかという問いには、80.6%の人が“もっと増えてほしい”と答えた。

この社会実験から、商店街のモール化とにぎわいの仕掛けづくりにより商店街の集客性が向上することが実証され、その後、信長まつり時等定期的に道路空間活用を実施している。

玉宮通り商店街によるこうした継続的な取組みが評価され、平成18年、中小企業庁により、「がんばる商店街77選」の一つに選定された。

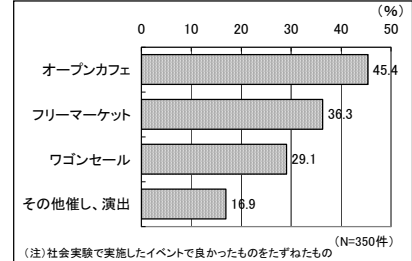
今後、さらにまちの魅力に磨きをかけ、集客性を高めるとともに、魅力ある都市景観を創出するため、無電柱化事業を実施することとし、基本計画に位置づける。

【玉宮通りオープンカフェ等の社会実験における歩行者通行量の変化】

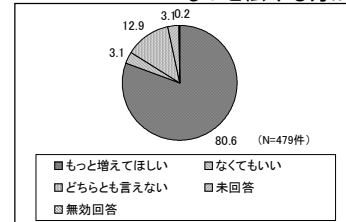
開催月日	曜日	調査ポイント1		調査ポイント2	
		歩行者通行量	通行量平均の割合	歩行者通行量	通行量平均の割合
実験前	9月18日	1,901		2,241	
	9月19日	2,260		2,618	
	計	4,161		4,859	
	平均	2,081	1.00	2,430	1.00
実験中	10月2日	4,083		3,895	
	10月3日	3,619		4,041	
	10月10日	2,811		3,017	
	10月16日	3,123		3,444	
	計	13,636		14,397	
	平均	3,409	1.64	3,599	1.48

(注1)実施年月：平成16年10月
 (注2)調査時間：10時～17時
 (注3)実験内容：オープンカフェ、イベント、ワゴンセール、フリーマーケット
 資料：岐阜市「光と緑あふれる歩行者空間創出実験(平成16年)」

【社会実験で実施したイベントで良かったもの】



【オープンカフェ等による道路空間の活用をもっと広げる方がいいか】



【「がんばる商店街77選」の掲載内容】



(出典：経済産業省中小企業庁「がんばる商店街77選(平成18年)」)

② ハロー！やながせプロジェクト

平成24年、柳ヶ瀬の若手商店主・デザイナーを中心とした有志「ハロー！やながせ」は、柳ヶ瀬商店街の楽しさや魅力を伝えるイベント開催や情報発信をきっかけに、商店街に新しい仲間を呼び込む活動を始めた。

「本とまち」をテーマに、「やながせ一箱古本市」を開催し、世代を越えた客層に来街する機会を設けたり、メンバーが編集した小冊子「柳ヶ瀬 BOOK」を発行し、まちの隠れた魅力を発信した。ハロー！やながせは、クラフト系と呼ばれる作家性の強い若者の集団であり、ゆえにこの集団に関わる店においては、これまでの商店街の客層とは違い、若い女性客層からの圧倒的サポートを受けている特徴があった。この特徴を生かし、柳ヶ瀬商店街の路上で定期的なクラフト市を開催することとなり、マルシェ型イベント「サンデービルディングマーケット」を実施することとし、基本計画に位置づける。

【ハロー！やながせ】



【サンデービルディングマーケット】



③ ウィークエンドビルディングストアーズ

サンデービルディングマーケットが、まちを再生させる取り組みとして一定の集客を達成したことから、次のステップとして、平成27年11月、月1回のマーケット出店者の常設店を目指し、新しいテナント人材の発掘・育成を目的とした毎週末にオープンする「ウィークエンドビルディングストアーズ」を始めた。

この取り組みは、サンデービルディングマーケットの中心エリアに立地するロイヤルビルの空きテナント部分を活用して短期出店を行える施設を開設し、創業希望者のテストマーケティングの機会をつくり、店づくりのノウハウ提供やサポートするなど、若い世代が注目する商業スポットとしてまちの魅力を発信するものである。今後、さらに、魅力ある創業者を発掘し、遊休不動産の利活用を促進するため、不動産のリノベーション及び貸し出し事業を実施することとし、基本計画に位置づける。

【ウィークエンドビルディングストアーズ】



【ロイヤル40】

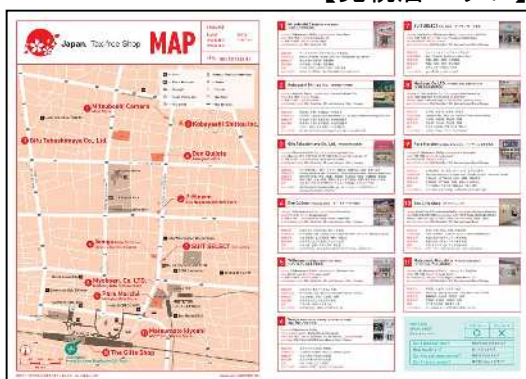
※築40年経過した商業施設の一部の区画を、ショップ、アトリエスペースとしてリノベーションするプロジェクト



④ インバウンド向けの免税店マップ作成

【免税店マップ】

岐阜市にぎわいまち公社は、岐阜駅、玉宮地区周辺のビジネスホテルに宿泊する外国人旅行者、いわゆるインバウンドの宿泊者が増加していることに着目し、中心市街地で観光庁の免税店シンボルマークの登録を行っている店舗を紹介する「免税店マップ」を、平成29年12月に実験的に作成した。インバウンド対策は様々な主体が関心を寄せており、(仮称)世界のタマミヤプロジェクトは「岐阜駅前・玉宮の都市観光化事業」を実施することとし、基本計画に位置づける。



(2) その他活動

レンタサイクル事業

岐阜市は、平成15年に「レンタサイクル社会実験」を行い、好評であったことから、平成17年10月、中心市街地を含む市内3か所をポートとして本格実施を開始した。その後、さらなる利便性の向上が望まれたことから、平成19年度から平成29年度の間、4か所増設し、現在7か所のポートでレンタサイクルを運営している。

利用者数は増加傾向にあり、利用目的の約7割が観光及び買物など日常生活で使用されていることから、利便性向上がまちの活性化に寄与するものと考えられる。

[2] 都市計画との調和等

本計画は、「総合計画」、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「立地適正化計画」に定められた方針等に適合している(10. [1] 都市機能の集積の促進の考え方を参照)。また、以下に示す「都市計画マスタープラン」、「地域公共交通網形成計画」に示された方針等とも適合している。

(1) 岐阜市都市計画マスタープラン

[全体構想：平成20年12月策定、地域別構想：平成22年5月策定]

① 都市づくりの基本理念

全体構想では、【豊かな自然と歴史に恵まれた環境のなかで、コンパクトな市街地が互いに連携した、安全で安心な活力あふれる県都】を基本理念として掲げ、集約型の都市構造の実現を目指している。

【目指す都市像のイメージ】

豊かな自然と歴史に恵まれた環境のなかで、活力と魅力のある観光・産業拠点等が適正に配置された都市を目指します。

中心部では賑わいと魅力ある空間の形成、周辺・郊外部では日常的なサービスを楽しむ快適な生活圏の形成を目指します。

また、環境との共生や、魅力ある都市景観の形成を図り、市民がいきいきと安全で安心して暮らせるスローライフ等の多様で幅広い価値観に対応した都市を目指します。

さらに、県都としてふさわしい中心的な都市を目指します。

② 重点目標

基本理念を実現するために、5つの目標を定め、その中に「交通システムが確保され、集約型の市街地が形成されたまちづくり」、「活力とにぎわいのあるまちづくり」を掲げ、中心市街地での商業・居住などの都市機能の集積を図り、まちなか居住やにぎわいの創出などを推進し、さらなる活性化を図るとしている。

【重点目標】

目標① 交通システムが確保され、集約型の市街地が形勢されたまちづくり

人口減少、高齢化、地球環境負荷の低減などの課題に対応するため、これまでのような外延的拡大型の市街地形成を見直し、既存の都市基盤を有効に活用し、日常生活のサービスが充足される地域生活拠点等を中心とした、まとまりある集約型の市街地形成への転換を図ります。

また、県都としての中核性を支える観光・文化・産業などの様々な都市機能を都市全体の視点から適切に配置し、中心市街地では商業・居住などの都市機能の集積を図ります。

それらの都市機能や地域生活圏を、公共交通ネットワークの形成などにより連携するとともに、歩行者や自転車が安全に通行できる交通環境の整備を進めます。

目標② 活力とにぎわいのあるまちづくり

県都として活力・交流・にぎわいのある環境が形成されるよう、中京圏や北陸圏と連携できる広域的な幹線道路網の強化を進めます。

中心市街地では、集約型の市街地形成を先導する役割を担う、まちなか居住やにぎわいの創出などを推進し活性化を図ります。

また、市の活力や魅力を高めるものづくり産業やまちなか観光などを推進し、活力・交流・にぎわいのあるまちづくりを進めます。

目標③ 都市の魅力を高める美しい景観・環境が創出されたまちづくり(略)

目標④ 安全・安心で、質の高い暮らしを支える住環境の整ったまちづくり(略)

目標⑤ まちづくりの担い手の育成と、市民協働によるまちづくり(略)

③ まちづくりの基本方針 [中央部①(中心市街地を含む地域)]

地域別構想では、中心市街地を含む中央部①地域のまちづくりの基本方針を以下のように掲げている。

【まちづくりの基本方針】(中心市街地関連を抜粋)

- ・本市の都市拠点として、商業、業務機能など高度で多様な都市機能の一層の集積を図り、県都としての本市の魅力向上を目指します。
- ・岐阜駅周辺から岐阜大学医学部跡地等周辺に至る地区については、地区特性に応じて、商業・業務機能、居住機能さらに公共・公益機能といった多くの機能を適切に配置することにより、まちなか居住の推進、商業の活性化の増進、にぎわいの創出を目指します。
- ・高度で多様な都市サービスや公共交通の利便性などが享受でき、日常生活を便利で快適に過ごすことができる都市環境づくりを目指します。

(2) 岐阜市地域公共交通網形成計画 [平成 27 年 3 月策定]

① 将来のまちの姿と方向性

公共交通を軸に都市機能が集積した歩いて出かけられるまち

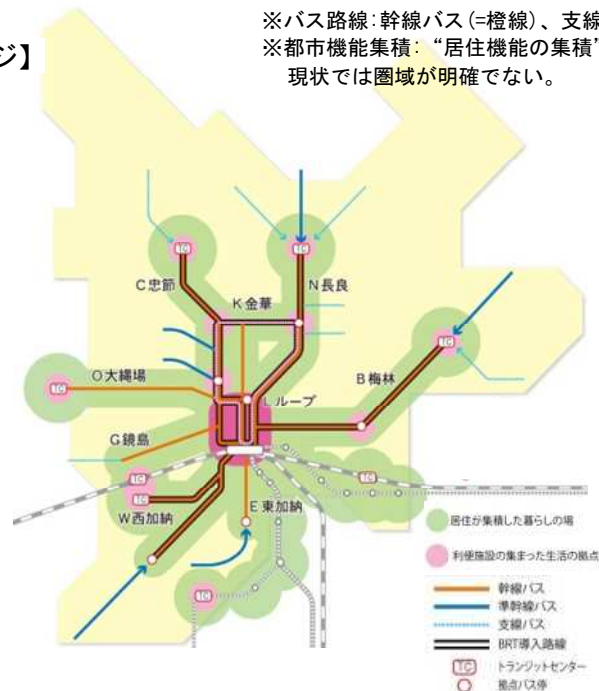
- 安全で円滑な公共交通を軸とし、徒歩、自転車及び自動車を含めた総合的な都市交通施策の推進により、都市の再構築(リノベーション)がされた魅力あるまちづくりを推進します。
- 高度に都市機能が集積した中心市街地と、身近な生活拠点を核とした地域生活圏が密接に結びついた、多様な地域核が有機的に連携した、環境負荷の少ない持続的発展が可能な集約型都市構造(コンパクトシティ)の実現を目指します。

② 公共交通の方針

都市の基軸となる公共交通網の形成により、利便性の高い公共交通ネットワークを構築します。

【将来の公共交通軸と都市機能集積のイメージ】

※バス路線：幹線バス(=橙線)、支線バス(=水色点線)で表示
※都市機能集積：“居住機能の集積”を緑色圏域で表示
現状では圏域が明確でない。



[3] その他の事項

中心市街地の活性化を推進するにあたり、民間、地域、行政など様々な主体による連携組織が設立されている。

また、岐阜市では、都市機能を総合的に増進するため、中心市街地整備推進機構と都市再生推進法人を指定している。

(1) JR岐阜駅周辺施設連携促進協議会

岐阜駅周辺地域の活性化を目指し、JR岐阜駅とその周辺施設(ハートフルスクエアG、アスティ岐阜、アクティブG、じゅうろくプラザ、岐阜シティ・タワー43)、岐阜県、岐阜市及び駅周辺地域関係者により、平成20年5月に設立された。県、市及び民間事業者や団体が連携し、活性化に向けた取り組みを実施している。

(2) 中心市街地活性化基本問題検討部会及びワーキンググループ

柳ヶ瀬を含めた中心市街地を魅力ある空間にしていくことが求められるなか、そのための仕組みづくりとして、中心市街地活性化協議会に中心市街地活性化基本問題検討部会を平成27年4月に設立した。

部会は、中心市街地を活性化させるための課題の具体的支援・解決方策の検討を行うため、必要に応じてワーキンググループを設置し、協議及び実践内容の報告を受け、進捗状況の確認や情報を共有し、活性化に向けた取り組みを実施している。

(3) 中心市街地整備推進機構

岐阜市の出資法人の中で、「中心市街地活性化に関する事業」を行うことを定めている「財団法人岐阜市にぎわいまち公社(平成24年4月より一般財団法人)」から、中心市街地整備推進機構の指定の申請があり、平成18年8月11日に指定した。

同公社は、まちづくり活動に関することなども実施しているが、中心市街地整備推進機構の指定を受けたことを機に、中心市街地活性化とまちづくりとを融合させ、平成20年7月に商店街の情報発信拠点として「岐阜市柳ヶ瀬あい愛ステーション」を整備し、市や商店街等と連携しながら数々の活性化への取り組みを実施している。

(4) 都市再生推進法人

都市再生特別措置法(平成14年法律第22号)に基づき、都市再生の新たな担い手として行政と連携したまちづくりに取り組む法人として、「柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社」から都市再生推進法人の指定の申請があり、平成29年7月7日に指定した。

同会社は、サンデービルディングマーケット、遊休不動産の利活用等各種事業に対するコンサルティング事業を行っており、「柳ヶ瀬に新しい商いを生み、土地・エリアの価値を高めて、次世代にまちを引き継ぐ」ためのまちづくり活動を、柳ヶ瀬の店主・地域住民と連携し、活性化に向けた取り組みを実施している。